

令和8年度 学校経営方針

<教育理念>

「社会が劇的に変化の中で、自由に生きていく力を育む」（公教育の本質）

「自由に生きていく力」の源は「気力」である。

今の子供たちが社会で活躍する頃は、厳しい挑戦の時代を迎えていると予想されます。また、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代となることが予想されています。

そのような時代が予想される中、中央教育審議会（H28.12）では、「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのように未来を創っていくのか、どのような社会や人生をよりよいものにしていくのか」という目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けることが重要である（いわゆる生きる力）」と示しています。言い換えると「社会が劇的に変化の中で、自由に生きていく力」を育むことが重要であり、これこそ、公教育の本質なのです。

「生きる力」や「自由に生きる力」は、簡単に数値化できません。つまり、数値化（認知）できない非認知能力の重要性を述べています。非認知能力とは、一般知能（IQ）とは関係のない、粘り強さ、協調性、やり抜く力、自制心、感謝する力といった類のものです。このような非認知能力は認知能力の土台となります。ある学者によると幼児期に非認知能力の高い子供は、将来的に入学困難な大学に進学している率が高いことが明らかになったと報告されています。

私が源と考える「気力」とは、まさに「非認知能力」に他なりません。自分のために、誰かのために「よし、これをやろう」という気持ちは数値化できないからです。では、具体的に気力が見える場面とはどのような場面でしょう。例えば、児童が、「よし、運動会のチームを盛り上げるために応援団長になるぞ」とか「夏休みの宿題プリント、毎日1枚ずつやるぞ」など、自らの行動の源になる気持ちです。学級担任であれば、「苦手な児童でも楽しめる体育教材にしよう」とか「みんなが使いやすくするために体育小屋の物の配置を変えよう」などが気力ある姿として想像できます。

子供のために、学校のために、「よりよいことをしよう」と考えるプロ教師（職員）がチームワークで活躍するならば、その姿が気力あふれる児童の姿として必ずや実現されると考えます。

みなさんで、気力あふれる学校づくりができるよう、私自身、気力をみなぎらせていく覚悟です。

私が担任時代から卒業文集にずっと書き続けた文章を紹介します。

贈る言葉
大畠 仁
私が大切にしている言葉を
贈ります。
「気力」
気力とは、なにかをやる
う！
とする気持ち。
今はできなくても、
今は知らなくても、
気力があればなんとかなる。
気力をふりしぼってほしい。

＜目指す学校像＞

「教師が、児童が、氣力に溢れ、真剣な眼差しと笑顔に満ちた学校」

＜目指す氣力溢れる児童像＞

「自ら学び、自ら関わり、自ら健康を大切にする児童」

（１）自ら学ぶ子

- ・「好き」と「得意」を伸ばす子
- ・課題を見つけ、課題解決を目指し考え抜く子
- ・友だちに教え、友だちに教わり、協働で学習できる子

（２）自ら関わる子

- ・自ら挨拶をし、人間関係を築ける子
- ・自分のよさや友だちのよさを見つめ自他を尊重する子
- ・自分、友だち、学級・学校のために役立つ事を考え実行する子

（３）自ら健康を大切にする子

- ・規則正しい生活をする子
- ・運動遊びや運動を自ら楽しむ子
- ・健康にとってよいことを考え、自分の健康管理ができる子

＜目指す氣力溢れる教師像＞

「熱意・誠意・創意、そして、笑顔溢れる教師」

（１）児童のために学び続ける教師（熱意）

- ・児童理解に努め、児童理解を深める教師
- ・プロ教師として知識・技術を高める教師
- ・愛情に溢れ、児童の笑顔を引き出す教師

（２）学校・家庭・地域に誠意をもって関われる教師（誠意）

- ・礼儀をもって、親切丁寧に関われる教師
- ・児童の個性を尊重し大切にする教師
- ・保護者の思いを理解し、関わりを大切にする教師

（３）新たな教育活動を創造する教師（創意）

- ・主体的、協働的な学びを実践する教師
- ・課題を見抜き、新たな教育活動を創造する教師
- ・自分の役割を認識し、役割を果たす教師

＜身につけさせたい資質・能力＞

○認知能力

学習指導要領に示された、基礎的、基本的な知識・理解・技能の確実な習得

○非認知能力（自己肯定感をベースとする）

積極性、探究心、協働性、創造力、忍耐力、自己抑制能力、社交性、思いやり、敬意、自尊心、樂觀性、自信、好奇心、メタ認知、コミュニケーション能力 等

＜重点・努力点＞

（１）確かな学力の育成

①探究型の学び、協働的な学びの実践

- 「自分なりの問いを立て、自分なりの仕方、自分なりの答えにたどり着く」
- ICT機器の効果的な活用

②教科の特性を味わわせ、「好き」「得意」を伸ばす学びの実践→学校研究

③STEM教育の推進

④特別支援教育の推進

（２）豊かな心の育成

①非認知能力を醸成する活動の充実

- 児童が関わり主体的、協働的に活動する特別活動→学校研究
- 時間・時刻を守ることの徹底、清掃・整理整頓の徹底、あいさつ・返事の徹底
「ふじみ野小大切にしている３つの行い」の徹底
- コミュニケーション能力、自他の尊重、自己肯定感、メタ認知能力等の醸成
「ふれあいタイム」「振り返りタイム」

②情報モラル教育の充実

③児童会を中心とした、積極的な「いじめ防止のための」活動の充実

④いのちの授業＋の推進

（３）健やかな身体の育成

①体育の授業における特性に触れ運動の楽しさを味わわせる授業

②康・体育的行事の充実

③健康教育の実践（規則正しい生活、健康について考える授業、感染症への対応）

④体力の向上

（４）安全で安心な環境整備

①日常点検、定期点検、臨時点検による状況確認と速やかな対応

②避難訓練などの体験を通じた自分の命は自分で守る能力の育成

③清潔で整理の行き届いた教室環境の整備

（５）一人一人を大切にする支援の充実

①教育相談室や医療連携など他機関との積極的な連携

②就学支援の充実 個のニーズに応じた学びの提供

③生徒指導委員会による組織的な対応

- 「早期発見早期対応」「すばやくかつ丁寧な対応」「記録に残し共有する」

（６）学ぶ環境の整備

①校舎内外の環境美化

②ICT、教材教具、特別教室の整備

③教室のユニバーサルデザインに基づく環境整備

（７）保護者・地域との連携

①安心・安全な学校（危機管理、衛生管理、積極的な健康教育、保護者との連携等）、 登下校の安全確保

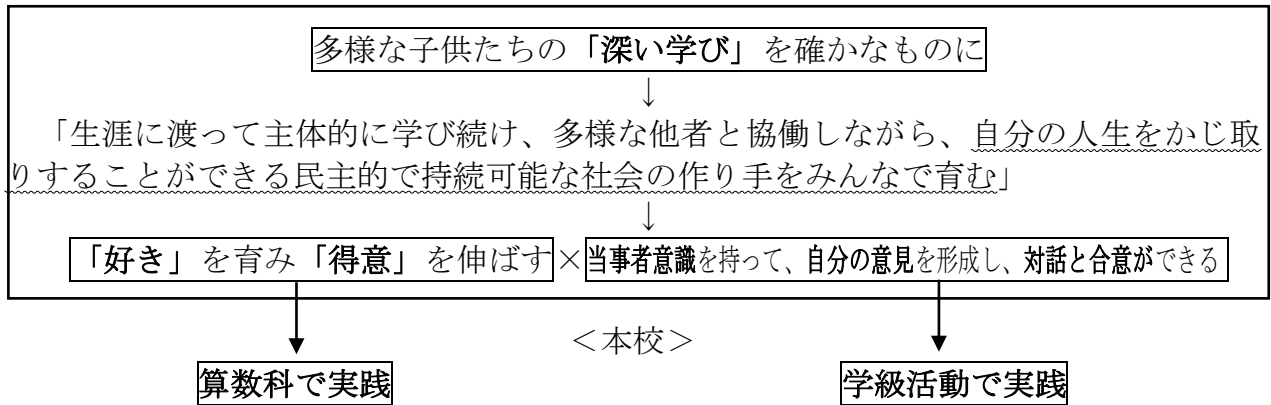
②学校応援団、学生ボランティア、地域人材の効果的活用

③コミュニティースクールの推進

④小中・小小連携による教育の推進

令和7年9月に中教審教育課程企画特別部会が論点整理を公示しました。これは次期学習指導要領の方向性が示された重要な資料です。私たちは、この内容を踏まえ未来を見据えた教育を実践しなければなりません。文科省が作成したポイント資料から見た方向性は下のとおりです。

＜次期学習指導要領の方向性＞



ある程度の知識・技能なしに思考・判断することは難しいし、思考・判断・表現を伴う学習活動なしに知識の深い理解と技能の確かな定着は難しい。だから、この二つの資質・能力を一体的に育成することができる学びを実践することが「深い学び」の姿です。

私たちは、これから生きていく子供たちの社会に目を向け、育むべき資質能力を明確にもち、既成概念にとらわれず、学びのデザインを行いましょう。

＜よい教師とは＞

三流	期待に届かない教師	本質に気づかない	同じことを指導される
二流	期待どおりの教師	本質を教わる	指導されて変容する
一流	期待を越える教師	一瞬で本質を見抜く	自ら変容する

＜学級経営は結果が出る＞

- ・いじめがない ・トラブルが少ない、トラブルが起きても解決する・学力が上がる
- ・運動遊びが活発 ・笑が多い ・行事に燃える ・けじめがある
- ・係や委員会活動、掃除などに熱心に取り組む・学校の約束を守る ・挨拶ができる
- ・手伝いや働くことを楽しむ ・先生が大好き ・ネガティブ発言がなく、ポジティブ発言が出る

「時を守り、場を清め、礼を正す」 哲学者・教育学者 森 信三

「時を守る」とは、時刻、時間、期限を守ること。それは、人を尊重すること

「場を清め」とは、掃除、環境整備、整理整頓。それは、人のために尽くすこと

「礼を正す」とは、あいさつ、返事、礼節。それは、自ら人と良好な関係を築くこと

(文責 大島 仁)